

甲斐市立竜王西小学校 自己評価書

平成30年 1月26日 (金) 作成

校長 「保坂 正樹」 記述者 職名(教頭)「平塚 克人」

学校教育目標 「自ら学び、自ら考え、進んで行動する、心豊かな児童の育成」

学校経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に対応できる生きる力の育成」をめざし、学校教育の充実に努める

- (1) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた教育活動を推進する。
- (2) わかる、楽しい授業づくりをめざす。
- (3) 全職員の共同体制「チーム竜西小」の教育活動を推進する。
- (4) 家庭・地域と信頼し合い、安全で安心な開かれた学校づくりに努める。

1 全体評価

○学校関係者評価委員会で、たくさんの評価項目の中から、学校教育目標および学校経営方針等の具現化を確認するため、教職員・児童・保護者を昨年度との比較(教職員・児童)、甲斐市全体の昨年度との比較(保護者)など、焦点化した評価項目を中心に、教職員・児童・保護者の三者相関から考察した。

○児童アンケートでは、全体的にA評価傾向がみられた。学校生活に慣れ、生活を楽しく評価した結果と思われる。教職員アンケートでは、大部分が肯定的な回答であり、熱心に教育活動を行っている様子が見える。保護者アンケート結果は、全体的に児童や教職員に比べて厳しいとも受け取れる評価が多いが、全体的に学校を信頼していただいている結果となった。ただ、相談できる先生のこと、児童と保護者の間で、前年度に比べてわずかに差異が見られた。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況 肯定的評価が圧倒的に多い。これは日頃から職員が「連携と協力」体制で教育を行っている成果だと考えられる。しかし、組織としてはできたものの、個人内では教育活動計画と教育実践の結びつきに満足がいかず、自身の教育活動を謙虚に反省している面も見られた。

改善策 今後、個人の「課題の明確化⇒改善策の検討」を意識した学校運営の工夫を更に図っていききたい。また、諸課題に対して、個が対応し、結果、負担増とならないよう、「報告・連絡・相談・確認」を密に行い、組織として連携・協力体制をより一層機能させ、教育活動計画の推進を図っていく。

II 学校運営について

達成状況 肯定的評価が多く、特に「施設設備の点検・処理・報告」や「個人情報保護」に関しては高い。また、「報告・連絡・相談」もなされ、学校運営が順調に機能していることが読み取れる。ただ、危機管理マニュアルの徹底には努力を要する。校内研究は、研究主任のリードのもと、児童の学力向上を目指し全職員が組織研究を進めることができた。

改善策 学校における危機管理・学校安全に対する関心は高いが、「危機管理マニュアル」の徹底にはさらに引き続き努力を要する。東日本大震災を受け想定外を想定内とする教職員の意識改善も防犯教育や避難訓練を実施していく中で、同時に行っていく必要がある。また、「教員同士の連携」に対しては今後も明るい職場作り、何でも言い合える雰囲気職場作りに努めていきたい。

Ⅲ 学習指導について （児童生徒用アンケートも含めて）	
達成状況	児童アンケートからは「授業が楽しい」「わかりやすく教えてくれる」と回答している児童の割合が多く、大部分の児童が、国語や算数の授業がわかると答えている。自己評価では、学習指導全般に渡って、意欲的な取り組みが進められている回答となった。ただ、評価規準と評価方法を明確にした授業の実践においては、まだ努力を要する。
改善策	児童が自由に発言し、質問のできる学級の雰囲気づくりや教師の寛容な姿勢に一層努めたい。そのために、発言がしやすくなる質問の工夫などをしたり、個に配慮した評価規準と評価方法を明確にして、指導・評価・支援という目に見える授業づくりに努めていきたい。
Ⅳ 生徒指導について （児童生徒用アンケートも含めて）	
達成状況	児童アンケートは、ほぼ昨年度並の回答が得られた。特に「規範意識」や「生き方教育」など、おおむね良好な回答が得られた。「いじめ」「不登校」といった問題は、本校では現状、存在していない。多少なりとも課題を持つ児童は存在するが、全教職員が共通理解する体制が校内委員会（すこやか委員会）を中心に確立されているからであると考えられる。
改善策	個別の指導が必要な児童はいるが、教職員の組織的な協力体制の中で指導に努めてきた。引き続き組織的な体制を維持し、保護者・スクールカウンセラー・外部関係機関との一層の連携を強めながら、課題の解消に努めていきたい。また、学習習慣や生活習慣（朝食の欠食など）が身につけていない児童には、保護者の一層の理解を得られるように努め、個々の家庭と連絡を取ることをバランス良く行って、習慣化を図りたい。
Ⅴ 地域との連携について	
達成状況	いきいき人材の活用、読み聞かせボランティア、外部講師の招聘など、地域の教育力を生かす取り組みを積極的に進めてきた。また、親子作業、運動会への協力と、保護者の協力も得ているところである。また、パトロールボランティアによる登下校指導への協力もいただいている。これらに限らず、地域の方々から本校の教育に多大な協力をいただいている。今後も、地域の各団体との連携・情報交換にも努めていきたい。
改善策	保護者との連携において、まだ十分であると判断できない状況にある。懇談会に積極的な出席がいただけるような内容・話題づくりを行うなど、工夫をした取り組みを展開し、保護者との一層の信頼関係の構築および連携に取り組みたい。また、安全対策として、地域の各団体との連携・情報交換にも努めていきたい。
Ⅵ 学校の特徴に関して	
達成状況	気持ちの良い挨拶は、人を元気にし、心を和ませてくれる。今年も、児童会では『あいさつ運動』に取り組んでいる。教職員自身が「挨拶はコミュニケーションの第一歩」であることを自覚し、児童会活動と連携を取りながら取り組みを広げているところである。また、読書指導については充分であるとは言えない現状があるので、家庭との連携を図りつつ、さらに根気強く取り組み、習慣化を図っているところである。
3 まとめ	
<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果は、ほぼ肯定的な結果となっており、概ね良い状態だと考えられる。保護者や地域の方々のご協力、市教委のご支援のおかげと感謝している。引き続き、全校体制で組織的な教育活動の展開と、課題を持つ児童に対する根気強い指導に当たっていく。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの回答に見られた、否定的な評価をしている児童の存在には十分留意し、保護者・地域・関係機関との一層の連携を図りながら、個別の指導・支援を行っていく。望ましい基本的生活習慣の定着を図り、「かしこくて、しなやかで、たくましい子」の育成をめざして、保護者・地域の方々と共に手を携え、今後とも地道な努力を重ねていきたい。 	